

津久井やまゆり園での事件について

このたびのやまゆり園の事件では、親の人たちは大きな衝撃を受けています。

被害を受けられた皆様には、心からお悔やみとお見舞いを申し上げ、亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。

「重症心身障害児者」というのは、重度の肢体不自由と重度の知的障害が重複した状態にある人のことをいいます。

私どもの会は、1964年に結成し、重症心身障害の人たちを含め、最も弱い人たちを守るには、社会の皆様の理解と共感がなければ守れないという考えのもとに50年余にわたって、重症心身障害児者への理解と共感を深める運動を進めてまいりました。

運動を進めるに当たって、会の三原則があります。

- 決して争ってはいけない
争いの中に弱いものの生きる場はない
- 親個人がいかなる主義主張があっても重症児運動に参加するものは党派を超えること
- 最も弱いものをひとりももれなく守る

重症心身障害児者は、どんなに重い障害があっても、可能性をもって一生懸命に生きています。そして私たちに優しい心を伝えてくれています。

この事件では、私たちの長年運動し、大切にしてきたものが踏みにじられた思いで、

残念でなりません。

私どもには、あけぼの学園という通所の施設がありますが、そこには、小学生から大学生まで多くの人たちが、ボランティアや交流に訪れてくれます。そうした中で、小学6年の女の子が感想文を送ってくれました。

私は、体験を通して重い障害を持った人の大変さを学びました。
最近、殺人や自殺のニュースがテレビをつけるといつもやっています。こんなニュースを聞くととても悲しくなります。障害を持った人も、がんばっているのに、人を殺してしまったり、自分で命を絶ってしまうなんて考えられません。
もし、私がこの先つらいことがあって、死にたくなったら、一生懸命生きているあけぼの学園のみなさんを思い出して、精一杯がんばろうと思います。
周りの人たちにも、命の大切さを伝えていける大人になりたいです。

「この子らを世の光に」これは、糸賀一雄先生の有名な言葉ですが、この言葉がここに具現されていると思います。

どんなに重い障害があつたとしても、可能性を持ったかけがえのない尊い命です。

私たちは、これからも「最も弱いもの」への皆様の理解と共感をいただく運動をさらに一層進めていかなければならないと皆で誓い合ったところです。

平成28年7月29日

全国重症心身障害児(者)を守る会